



アオダイ



ハマダイ



ヒメダイ

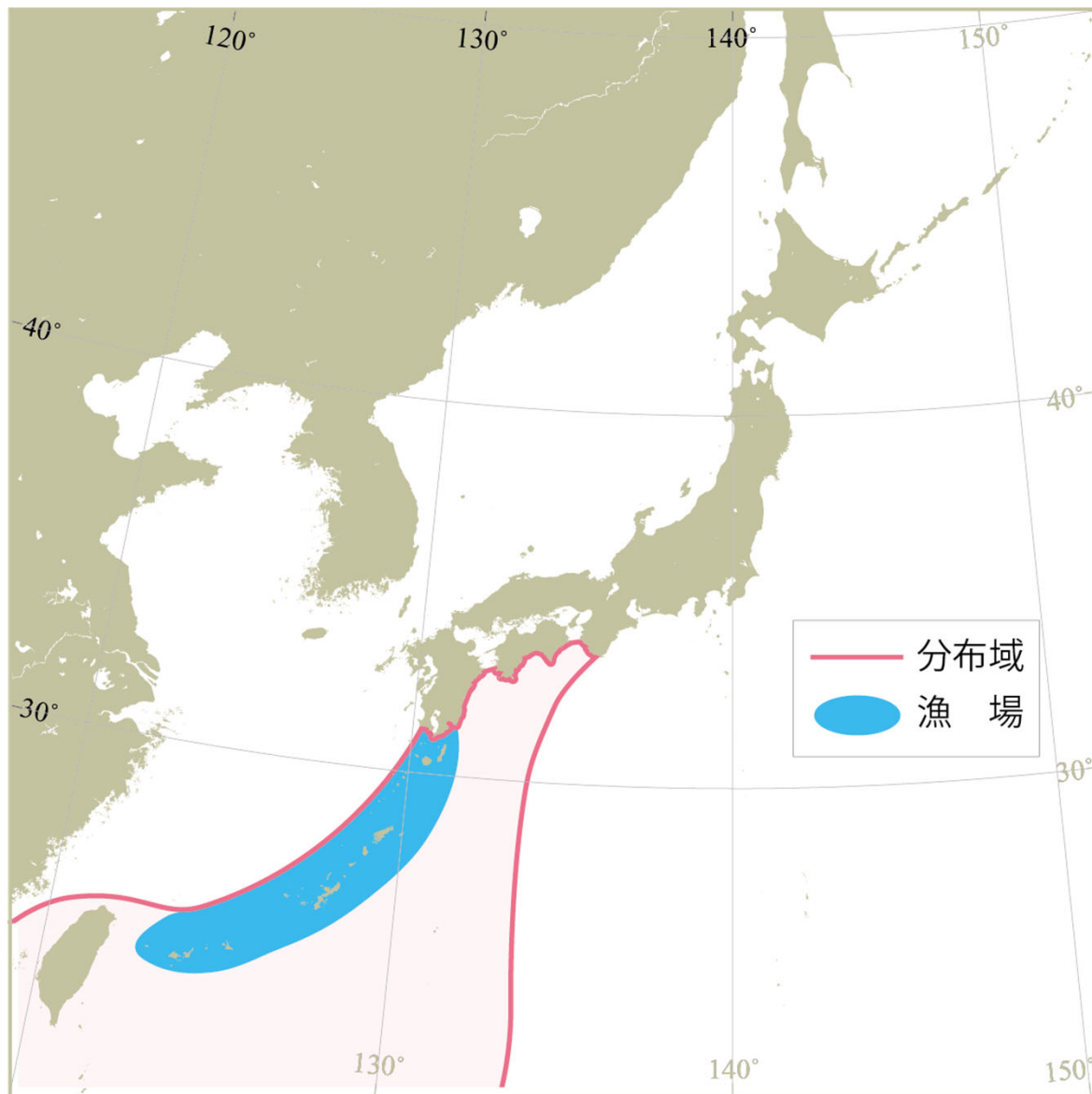


オオヒメ

## マチ類

奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島  
令和6年度資源評価結果

# 生物学の特性

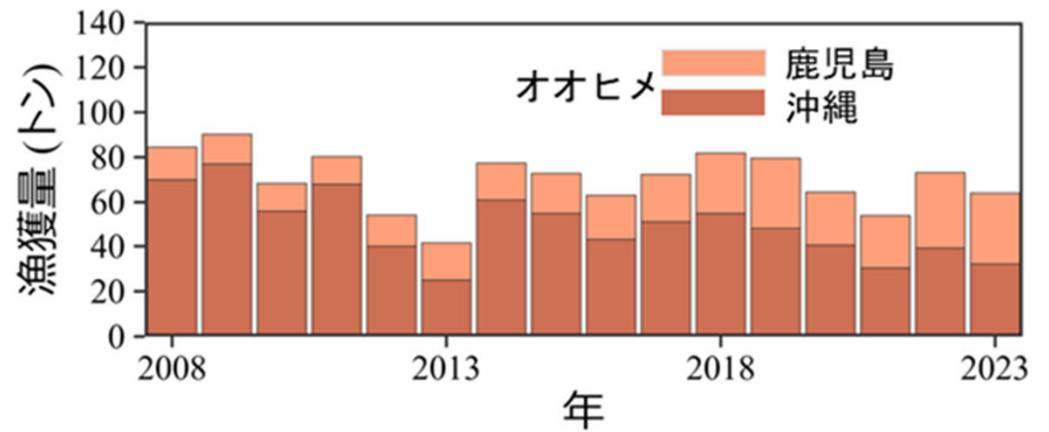
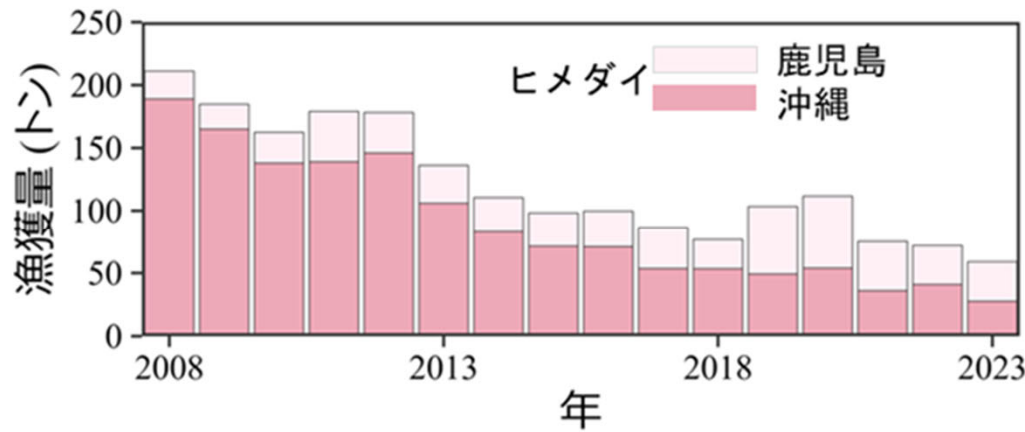
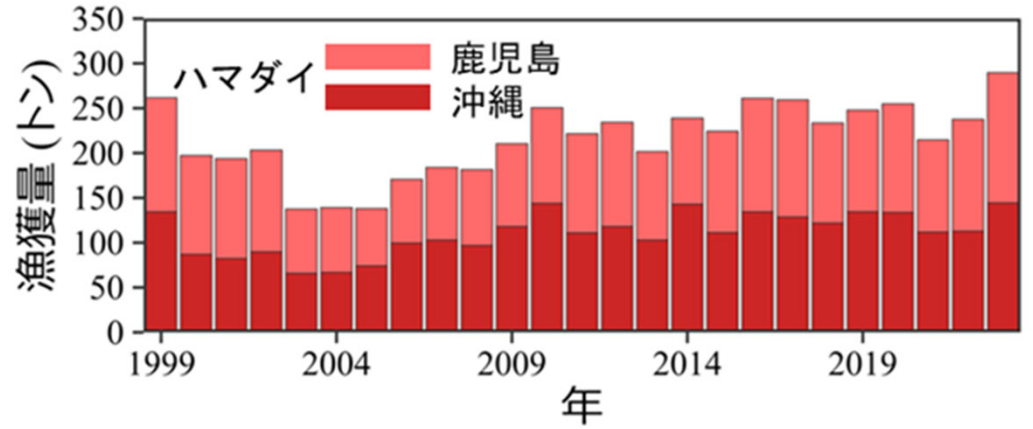
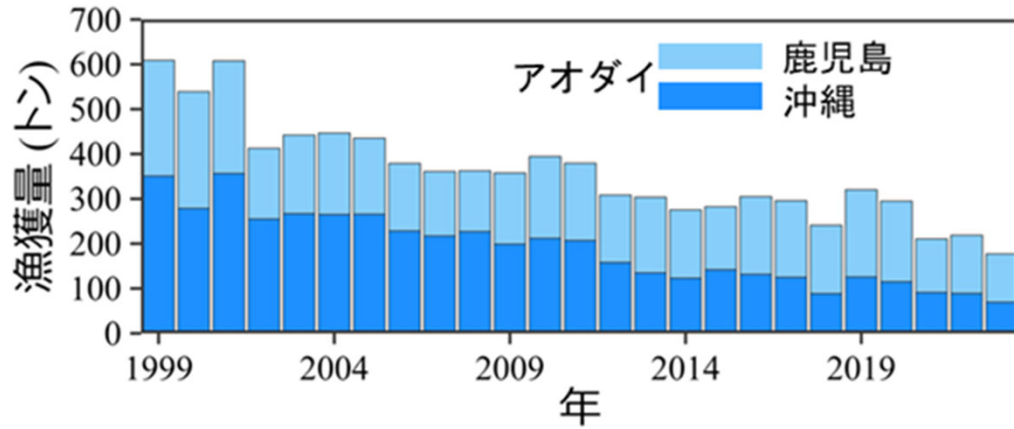


- 漁獲はほぼ周年

## 生物学の特性

- 寿命：アオダイは59歳、ハマダイは55歳、ヒメダイは38歳、オオヒメは35歳
- 成熟開始年齢：アオダイは2歳（一部）、7歳（50%）、ハマダイは9歳（一部）、12歳（50%）、ヒメダイは2歳（50%）、オオヒメは2歳（一部）、3歳（50%）
- 産卵期・産卵場：アオダイは4～9月、ハマダイは5～11月、ヒメダイ・オオヒメは3～10月
- 食性：アオダイは大型動物プランクトン、ハマダイは小型イカ類、魚類、ヒメダイとオオヒメは魚類、ヒカリボヤ類、浮遊性甲殻類、イカ類など
- 捕食者：マハタ、カンパチ、サメ類など

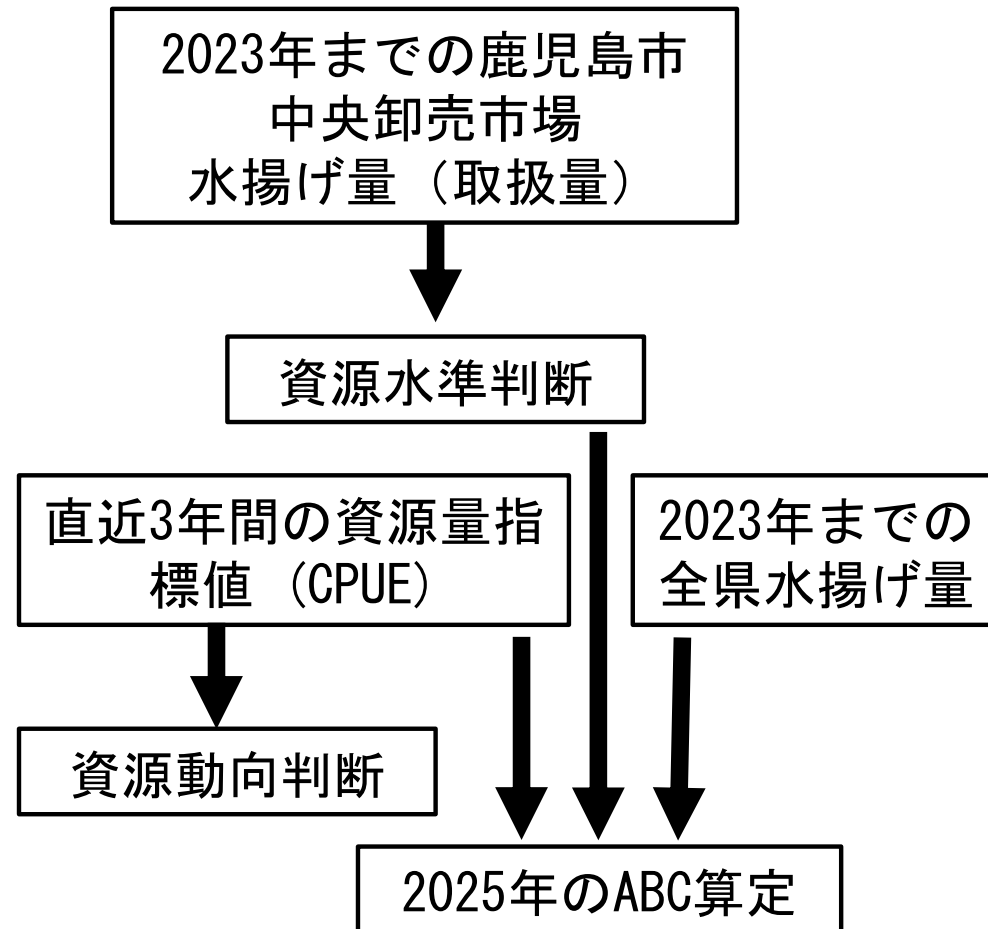
# 漁獲の動向



- 水深100m以深で操業する深海一本釣り漁業や底立はえ縄漁業により漁獲される
- 2023年漁獲量
 

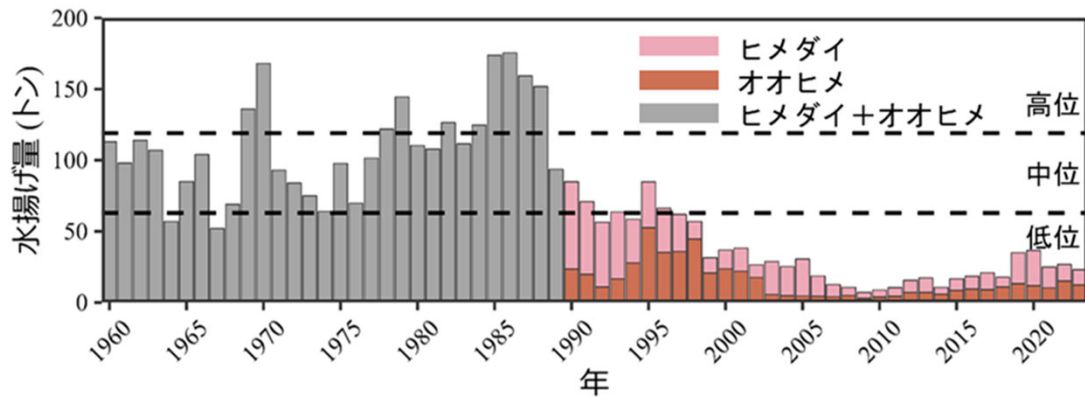
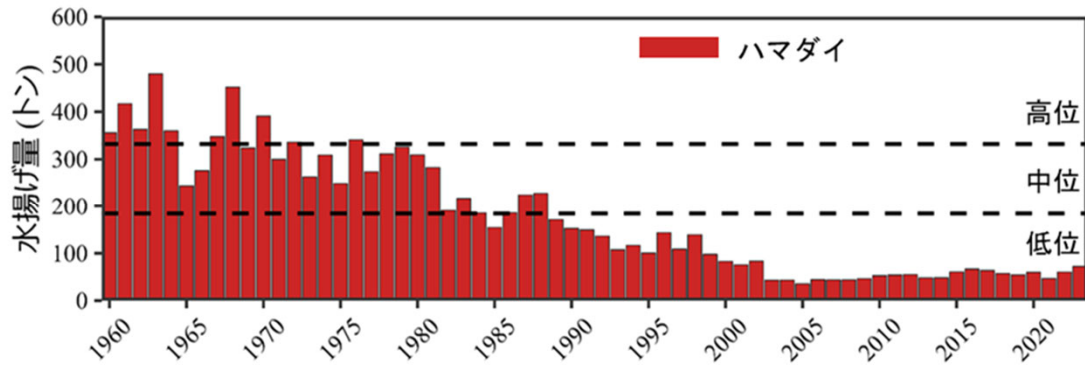
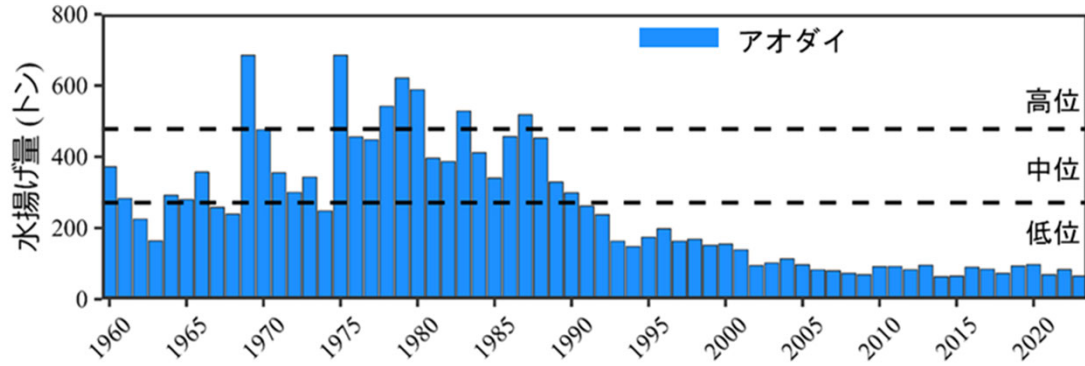
アオダイ : 177トン	ハマダイ : 290トン
ヒメダイ : 59トン	オオヒメ : 64トン

# 資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 資源の動向①



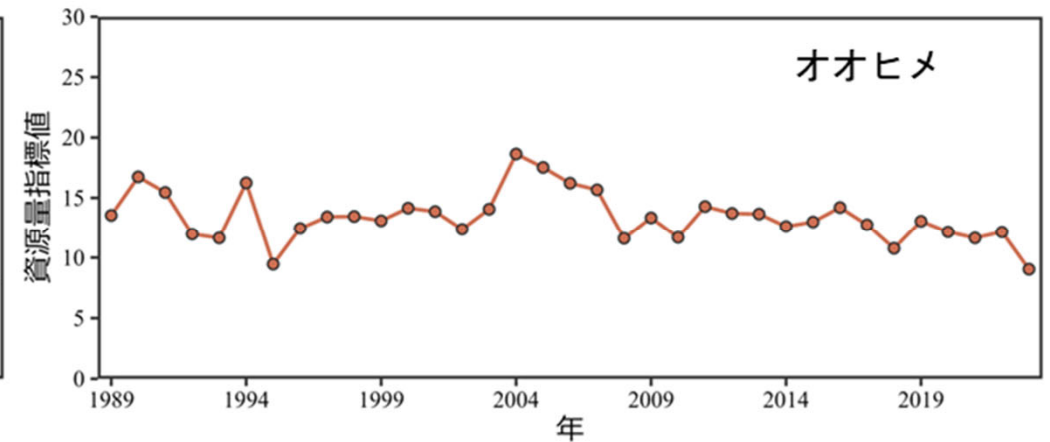
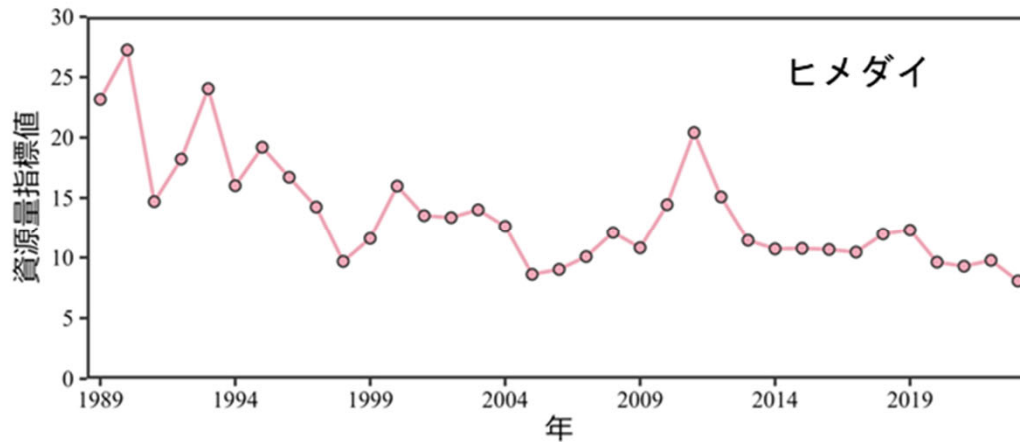
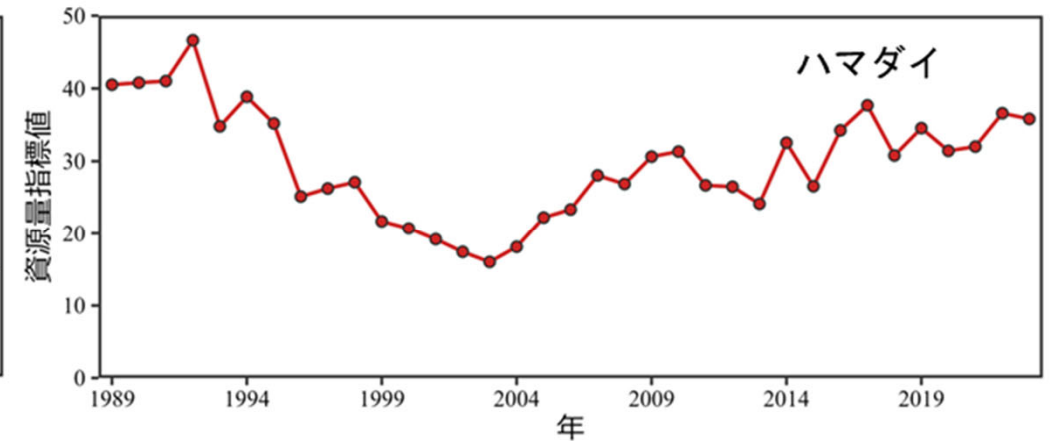
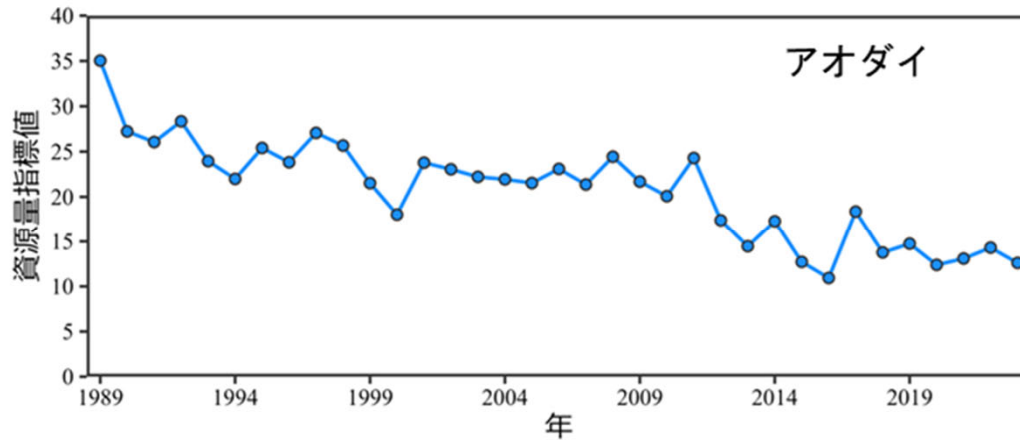
## ※水準区分

アオダイ、ハマダイおよび  
ヒメダイ・オオヒメの混合種群

(それぞれの水揚げ量の最高値と  
最低値の間を3等分した値を高位・  
中位・低位の区切とした)

- 資源水準：64年間の水揚げ統計がある鹿児島市中央卸売市場の水揚げ量から、2種・1種群とも「低位」

# 資源の動向②



- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の資源量指標値（八重山漁協一本釣り漁船1隻1航海あたりの漁獲量（CPUE））の推移から、アオダイは「横ばい」、ハマダイは「増加」、ヒメダイ、オオヒメは「減少」

# 資源評価のまとめ

- 水準は、いずれの種・種群も低位
- 動向は、アオダイで横ばい、ハマダイで増加、ヒメダイ、オオヒメで減少
- 漁獲量と資源量指標値の推移をもとに、2025年ABCを算出した
  - ※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

# 2025年ABC

	管理基準	Target/ Limit	2025年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値 からの増減%)
アオダイ	0.7・Cave 3-yr・0.98	Target	111	—	—
		Limit	139	—	—
ハマダイ	0.7・Cave 3-yr・1.05	Target	146	—	—
		Limit	183	—	—
ヒメダイ	0.7・Cave 3-yr・0.93	Target	36	—	—
		Limit	45	—	—
オオヒメ	0.7・Cave 3-yr・0.88	Target	31	—	—
		Limit	39	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1)により、  
 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Cave\ 3\text{-yr} \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$  : 0.7 (Caveを用い、資源水準が低位である場合の推奨値)
- Cave 3-yr : 直近3年間 (2021~2023年) の平均漁獲量
- $\gamma_1$  : 0.98、1.05、0.93、0.88 (直近3年間 (2021~2023年) の資源量指標値の傾きと平均値から算出)